

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

中国山地のバックカントリースキーと高校登山部顧問の30年

西部伸也著（自費出版）

広島県高体連登山専門部のHPを覗いたことのある方はいるだろうか？この中にアップされているコラム「登山部顧問からアウトドア少年少女へノウハウを伝授します。」というページには、高校山岳部顧問をする上でのヒントとなるような情報がたくさんある。

そのページの中にある「山スキー」というページにはかねてより興味をもっていた。このページの著者こそ誰であろう、前号と前々号で「北信越高校山スキー研修会」に長駆、広島より参加してレポートを寄せてくださった西部伸也先生である。西部さんは、2月19日（氏の61歳の誕生日）、それらをまとめて一冊の本として編み、上梓された。おりしもその日が、北信越地区高校山スキー研修会の初日ということもあり、できたてほやほやのその著に接せることができたのは居合わせたものの特権だった。このことは、かわらばん580号にも、「・・・18時からの夕食までのひと時、部屋の一つに集まり、しばし歓談。その際、最近私が自費出版した『中国山地のバックカントリースキーと高校登山部顧問の30年』（A4版120ページ）を皆さんに紹介し、『代金』やカンパをありがたく頂いた。」と、西部さんの文章で掲載した。

さて、その中身である。こちらも西部さんご自身のことばで紹介しよう。「1983年以来、広島県立安西高校を皮切りに30年余にわたりワンダーフォーゲル部・登山部の顧問を務めさせていただき、部員の皆さん、同僚顧問の先生方、高体連登山部の諸先輩・仲間、さらには山岳連盟の皆様との登山活動が、楽しいひと時を与えてくれました。・・・中略・・・昨年3月末にいったん定年退職を迎えたのを機に、これまでの活動を振り返り、合わせてホームグラウンドといえる中国山地のバックカントリーフィールドをまとめた資料にしたいと考えました。『四方山話』（編集子注：著書内の記事を指す）でも触れていますように、全国のバックカントリーフィールドについては多くの案内書籍がこれまで刊行されていますが、こと中国山地に関しては氷ノ山と大山が取り上げられるくらいで、中国山地のバックカントリーフィールドを網羅する資料はこれまでのところ刊行されていません。まだまだ不十

紹介されている山域

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 十種ヶ峰 | ⑮ 三瓶山 |
| ② 羅漢山・法華山 | ⑯ 大万木山 |
| ③ 右谷山・錦岳・寂地山 | ⑰ 吾妻山・比婆山連峰 |
| ④ 鬼ヶ城山・冠高原・冠山 | ⑱ 道後山 |
| ⑤ もみのき森林公園（小室井山） | ⑲ 花見山 |
| ⑥ 恐羅漢山・十方山 | ⑳ 金ヶ谷山・朝鍋鷲ヶ山・三平山 |
| ⑦ 深入山 | ㉑ 蒜山 |
| ⑧ 臥龍山・掛頭山 | ㉒ 鏡ヶ成・烏ヶ山 |
| ⑨ 大佐山 | ㉓ 大山 |
| ⑩ 雲月山 | ㉔ 野田ヶ山 |
| ⑪ 阿佐山山塊（阿佐山・天狗石山・他） | ㉕ 恩原高原・三国山 |
| ⑫ 寒曳山 | ㉖ 那岐山 |
| ⑬ 芸北文化ランド（板尾山） | ㉗ 氷ノ山 |
| ⑭ 龍頭山 | ㉘ 扇ノ山 |

分とは思いますが、一定の資料として役立てていただければ幸いです。・・・。」とある。

本文は3部構成となっており、第1部は西部さん自身が登り、滑った中国地方の28の山域（前頁表参照）がとり上げられ、それぞれの山の魅力の紹介がされている。随所にその時々エピソードがちりばめられており、単なるコース紹介にとどまらず、読み物としても極めて興味深い。第2部は、第1部で紹介した広島県のほぼ全域と山口・島根・岡山・鳥取（・兵庫）県の主なバックカントリー適地のルート図が示されていて、実際にその場へ行く時の格好の羅針盤となっている。このルート図だけでも労作の名に値する。第3部はバックカントリー四方山話のタイトルが付された随想集。バックカントリーにまつわる16話が「四方山」の名前よろしく四方八方、縦横無尽に語られる。番外編と位置付けられている高校登山部顧問として書かれたものも、僕には極めて興味深い内容だった。普段は穏やかな印象の西部さんだが、その芯の強さがにじみ出たような生徒を思う気持ちが現れた文章に接し、教師としてもすばらしい方だと気づかされ、改めて尊敬の念を抱いた。

高体連を外れたところで、小生が所属している長野県山岳協会と広島県山岳連盟とは古くからのお付き合いがあり、僕自身も何人か広島岳連の方とは面識がある。そんな方々のお名前も随所にちりばめられていて、個人的にも懐かしい思いを持ちながら読ませていただいた。

大町高校最後の山行

3月5日（土）日帰りで白馬乗鞍（天狗原）へ登った。生徒は10名。7時に学校へ集合し、梅池スキー場まで移動。ゴンドラで梅の森まで登る。スキーが2名、ボードが2名、残りはスノーシュー。今年は梅池でも雪は少ない。雪の量は例年の4月ころの感じ。加えて、春を思わせる陽気である。途中、2本休憩を入れて、12時20分に天狗原の祠に到着。足がまちまちなので、下りのことも考えて今日はここまでとし、大休止。持ってきたラーメンを作って腹ごしらえ。

今年度最後の山行を締めると部長に指示すると、「先生校歌歌いましょう。」という。大町高校は来年度から統合で、大町市唯一の学校となる。実は今日に先立ち、先週木曜日に卒業式が行われ、それに引き続いて大町高校115年の閉校式が行われた。その前週には、卒業生まくりだし（お別れ）山行で鷹狩山に登って、先輩たちから後を託されたという経緯もあった。そんなこともあってか、いつもの山岳部歌に先立ち、校歌をというのは、極めて自然な流れとはいえ、母校を思う生徒の気持ちを心の底から、意気を感じた。白馬乗鞍に向かって、大きな声で、本当に最後の校歌を歌い、そしていつもの通り山岳部歌。校歌は新校への移行に伴って変わる。そんな思いが、みんなの心を一つにした。

次回の山行は4月1日から2日に予定している。もうその時には大町高校はない。新たな「大町岳陽高校」に生まれ変わっている。しかし、大町高校山岳部の精神は大町北高山岳部の精神と融合し、新たな伝統のスタートとなることだろう。そしてそこでは生徒たちは、山岳部歌を歌い、心の中で現校歌を唱えていることだろう。一抹の寂しさと希望・・・一つの時代は終わった。

